

2024 年度 事業計画書

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会

1. 2024 年度事業の方針

2024 年度の事業計画の柱は、ユニバーサル・ホスピスマインドを学んだ人達が、それぞれのコミュニティに持ち帰り、伝え、定着する枠組みを構築することです。

孤独・孤立が社会課題として注目される中、国内外で様々な取り組みがなされています。エンドオブライフ・ケア協会は、生きづらさを抱えた人など、苦しむ人が少しでも穏やかな人生を送ることができるように、ホスピス医療で培ってきた対人援助のエッセンスを、誰もがわかりやすい言葉で伝える活動をしてきました。半径 5m の距離にいる誰かの苦しみに気づき関わる担い手がそれぞれのコミュニティで広がるのが、孤独・孤立の予防につながると考えています。

死や病気や介護に限らず、人生における様々な困難やそれに伴う心の苦しみは、誰にでも気軽に話せるものではなく、本人は自分ひとりで抱えていたり、周りから見過ごしたりしてしまいがちです。誰にも打ち明けられない苦しみを、たった一人でもわかってくれる人がいたならば、そしてその苦しみから自分にとって大切な支えに気づいたならば、真っ暗と感じていた世界に一つの灯りが灯る可能性があります。法人設立から 10 年目を迎え、全国で子どもからお年寄りまで、多くの方がユニバーサル・ホスピスマインドに触れて、変わる姿をたくさん伺って参りました。

課題としては、ユニバーサル・ホスピスマインドに触れた人達が、自分の日常に取り入れることに加えて、周囲の人達に伝えていくことです。どうしたら、自分や人の苦しみに気づくのか、気づいたときにどのような関わり方ができるのか、そのヒントは、日ごろから問いを持ち対話することにあると考えます。自分だけではなく、周囲の人達にそのヒントを伝えるための方策に、今年度は力を入れます。具体的には、研修や講演会を受講された人が、それぞれのコミュニティで伝えやすくするためのツールや、地域で活動されている諸団体との協働などです。

すでに多死時代を迎えた日本において、誰かを思いやるあたたかな心を持った人が増えていくことを願っています。

代表理事 小澤 竹俊

II. 各事業について

(1) 「人生の最終段階」に対応できる人材の育成

コロナ禍で、養成講座はオンライン化、途中から対面と現地とのハイブリッド開催を進めてきたが、今年度は現地のつながりも大切に、対面とオンラインの開催を極力分けて開催する。

一方、今年度は以下の点に注力していくことで、関係人口の拡大と持続可能な収益・運営体制の拡大を目指す。

◇ 養成講座に代わる/布石となるコンテンツ

- 看取り期のコミュニケーション
- いのちの授業 認知症版
- 企業向け・働く世代向け

◇ 定着化支援

- 講演・講座で学んだ次のステップとしてのツール
- 他団体との協働（ユニバーサル・ホスピスマインドを活用いただく）

(2) 職種や世代を超えて学び、実践するためのコミュニティを支援する活動

コロナが5類となり、各地で対面開催が増えたことで繋がりを新たにした学習会グループもあった。一方で、引き続き、地域を限定せずオンラインで定期開催することで、誰もが学びたいときに参加できる機会があったことは好評だった。

各地の認定 ELC ファシリテーターや「折れない心を育てる いのちの授業」認定講師がそれぞれのコミュニティでオンラインを含めて活動ができるように支援する。認定 ELC ファシリテーターと引き続き綿密な連携を図り、主催する講座やイベントでの活動を通してスキルアップやコミュニティづくりをサポートする。

(3) 地域コミュニティのレジリエンス強化「折れない心を育てる いのちの授業」

講師トレーニングをオンラインで年間3回開催。4か月ごとのサイクルで、受講・評価・認定プロセスを運用する。

また、認定後、講師が自信を持ってオンラインなどで授業を実施できるようになったり、学校等の場へ提案に伺えるようになったりすることを目指し、認定講師がお互いの経験から学び合え

る学習会を引き続き月次開催する。

認定講師が活躍できる場を増やしていくべく、エンドオブライフ・ケア協会からも各所へ働きかけていく。特に、特定地域において、学校や自治会やNPO等とまちづくりの視点で面での展開を試行する。

なお、需要増加に伴う業務負荷への対応や、教材の拡充、プロモーションも重要であると考えたとき、活動資金の確保が引き続き大きな課題となっている。寄付（特にマンスリーサポーター）、助成事業、企業プロボノを今年度も開拓していく。

（４）社会課題と活動への関心を育む取り組み

学会・研究会等における教育講演、ポスター発表、論文等を通じて活動成果を可視化していく。

活動の関係人口を増やす上で、共通のゴールを目指す様々な他団体との連携や、これまで十分に活用できていない媒体を通して、医療・介護業界に留まらず発信していく。これにあたり、今年度も企業プロボノの力を借りていく。

（５）現役世代 / 将来世代の「もしも」に備える

職種を問わず、対人援助に関心のある方であればどなたでも参加できる機会として、問いをベースにした対話型オンラインイベント「ユニバーサル・ホスピスマインドをもとに最強のチームを作ろう」を、今年度も毎月第三火曜日に開催していく。

さらに、将来世代が活動に関心を示し、自発的に学べる機会を応援すべく、認定 ELC ファシリテーターや認定講師が繋がりを持つ専門学校や大学等において、自主的な学習会をサポートする。

Ⅲ．法人運営

（１）ホームページのリニューアル

昨年度から継続して、活動の広がりに伴い複雑化している情報の裏側（システム側）を改修するとともに、ユーザーのインターフェースとなるホームページについて、ユニバーサル・ホスピスマインドを軸に、ホームページのデザイン変更を行っている。完成度は7割程度で、細部は順次進めていく。

(2) いのちの授業 出前授業アプリ

増加する学校や地域からの「折れない心を育てるいのちの授業」の依頼に着実に対応できるよう、ツール開発に着手し、第一版をリリースした。一方で増加している認定講師が、応募から実施後の報告まで一気通貫で活用できるものを目指し、引き続きバージョンアップしていく。

(3) プロボノとの協働・伴走支援

関係人口の拡大に向けて、プロボノに協力を求めてきた。2023年度は、次年度に向けて3つのプロジェクトの支援が確定した（企業プロボノ2件、マンスリーサポーター募集伴走支援1件）。2024年度はプロジェクトを進めていく。

IV. 2024 年度計画

事業名/活動内容	実施日・頻度等	実施場所	人数 (人)
(1) 「人生の最終段階」に対応できる人材の育成			
「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」 (公開講座)	年 28 回	オンライン	560
「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座」 (インハウス研修)	年 3 回程度	各地域	100
「看取り期のコミュニケーション」	年 4 回	東京/各地	80
ディグニティセラピー	年 2 回	東京	40
グリーフ	年 2 回	オンライン	20
「認定エンドオブライフ・ケア援助士」の認定	通年	事業所	100
(2) 職種や世代を超えて学び、実践するためのコミュニティを支援する活動			
「認定 ELC ファシリテーター」の認定・更新	通年	事業所	15
地域学習会 (認定 ELC ファシリテーターによる学習会)	通年	オンライン/ 各地域	4,000
(3) 地域コミュニティのレジリエンス強化「折れない心を育てる いのちの授業」			
講師トレーニング	年 3 回	オンライン	100
「折れない心を育てる いのちの授業 認定講師」の認定	通年	オンライン	30

認定講師の学び合い	年 12 回	オンライン	360
認定講師による授業	通年	オンライン/ 各地域	15,000
(4) 社会課題と活動への関心を育む取り組み			
書籍出版	通年	－	－
メディア掲載・出演	通年	－	－
研究・学会発表・論文投稿	通年	－	－
(5) 現役世代 / 将来世代の「もしも」に備える			
設立 9 周年シンポジウム	2024/4/13	オンライン	200
「ユニバーサル・ホスピスマインドをもとに最強のチームを作ろう」	毎月第 3 火曜日	オンライン	600
YouTube「ユニバーサル・ホスピスマインドチャンネル」	通年	オンライン	－
プロボノ/企業研修	通年	オンライン/ 対面	－
他団体連携（地域福祉に関わる活動）	通年	オンライン/ 対面	－

以上